

# 和良地域振興計画



令和3年12月

郡上市

和良振興事務所

# 目次

## 第1章 基本的事項

- (1) 和良町の概況 ..... 1
- (2) 和良町の人口の推計..... 2
- (3) 和良町の産業（就業者数と事業所数） ..... 3

## 第2章 分野別計画

- (1) 産業・雇用 ..... 4
- (2) 環境・防災・社会基盤 ..... 5
- (3) 健康・福祉 ..... 7
- (4) 教育・文化・人づくり ..... 8
- (5) 自治・まちづくり ..... 9

## 第3章 小さな拠点とネットワークの形成にむけて

- (1) 小さな拠点とネットワークの考え方 ..... 10
- (2) エリア設定の考え方 ..... 10
- (3) 地域運営の仕組みづくり ..... 11

## 第4章 和良町における小さな拠点とネットワークづくり

- (1) エリアの現状 ..... 13
- (2) 和良町の主な地域活動団体 ..... 15
- (3) 小さな拠点とネットワークづくりの方向性 ..... 16

## 第1章 基本的事項

### (1) 和良町の概況

和良町は郡上市の東部に位置し、東は下呂市金山町、北は明宝、西は八幡町、南は関市上之保に接しており、15の集落からなる典型的な農山村地帯で総面積の95%を山林が占めています。

鬼谷川と鹿倉川が合流し和良川となり、これに土京川が合流して、郡上市で唯一飛騨川へと注いでいます。町内を流れる河川には国の特別天然記念物オオサンショウウオや乱舞するホタルが生息し、市民による保護活動が盛んに行われています。和良川は平成20年に平成の名水100選にも認定され、中でも、和良川に生息する和良鮎は平成27年に地域団体商標に登録され、名実ともに和良町を代表する地域資源であり地域ブランドです。これは、毎年高知県で開催される鮎のおいしさの日本一を決める清流めぐり利き鮎会において、和良川の鮎が4度のグランプリと5度の準グランプリを獲得したことが背景となっています。また、八幡町の堀越峠から続く石灰岩地帯にある鍾乳洞群の東端の洞穴（蛇穴）からこんこんと湧き出す水は、昭和61年12月12日に岐阜県名水50選に選ばれています。

町内の中心部には樹齢1,000年を超えるとされる県の天然記念物の一本杉や戸隠神社、縁結びや子宝成就のご利益があるとされる夫婦杉や重ね岩の文化財があります。また15の郷で祭礼行事が行われており、とりわけ毎年10月に行われる戸隠神社の九頭の祭りは、五穀豊穰を祈って400年前から続く和良町最大の祭りで、神輿行列、大神楽、伊勢神楽、馬追い神事や山車の上で那須与一やとんぼ返しのからくりが上演される迫力のある祭りとなっています。

合併前の旧和良村は、平成12年度に厚生労働省が発表した市町村別平均寿命で男性日本一（80.6歳）となりました。長寿の要因としては、検診などの医療的な面もさることながら、澄んだ空気ときれいでおいしい水で育った米や野菜などを食することもその一つです。また、町内には全天候型多目的交流広場があり、天候に左右されず皆でゲートボールを楽しみながら体を動かすことも長寿の秘訣です。

和良町には家族等で楽しむことができるキャンプ場が2つあります。1つは和良川沿いに位置する和良川公園オートキャンプ場で、夏には川遊びを目当てに多くのファンが訪れます。もう1つは山奥にある和良大月の森公園キャンプ場で、周囲を山で囲まれ、周りを気にすることなくゆっくりと時間を過ごすことができます。タイプの違うキャンプ場が町内に存在するため、人気のスポットとなっています。



和良鮎



戸隠神社祭礼

## (2) 和良町の人口の推計

和良町は、2015年から2035年にかけての人口の減少率が約40%で、市内7エリアと比較すると最も高くなっています。また年少人口と生産年齢人口が急激に減少することから、2035年には老年人口が6割を超え、近い将来、地域の自治機能の低下が懸念されています。

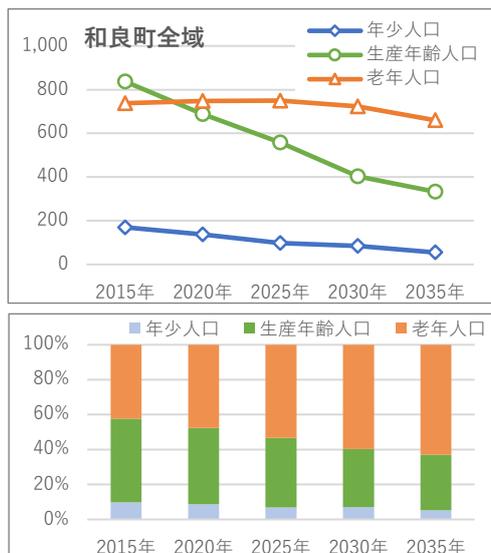
それを見据えて、和良町では移住支援に力を入れてきており、ここ数年では年間に平均11人が移住しています。

### 【3年齢区分（年少人口：0～14歳、生産年齢人口：15～64歳、老年人口：65歳以上）の人口推移】

（資料：「将来人口・世帯予測ツールV2（H27国調対応版）データ」）

和良町全域	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	170	138	98	85	55 (△67.6)
生産年齢人口	837	688	558	404	333 (△60.2)
老年人口	738	748	750	723	660 (△10.5)
合計	1,745	1,574	1,406	1,212	1,048 (△39.9)

- ・年少人口と生産年齢人口の減少率がいずれも60%を超え、2020年に生産年齢人口を老年人口が上回る予測となっている。



### 【直近5年間の和良町への移住者推移】

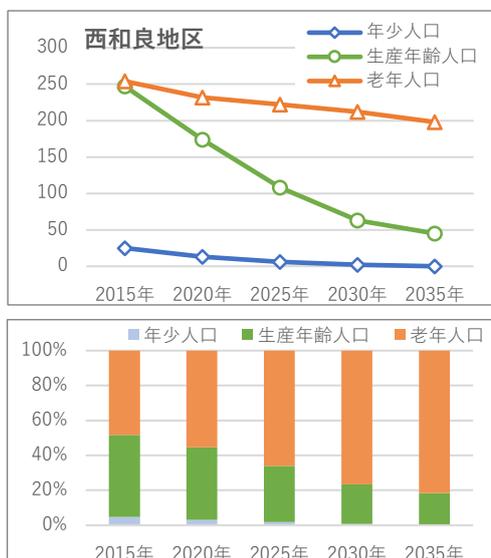
年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計	平均
世帯	7世帯	7世帯	5世帯	6世帯	4世帯	5世帯	34世帯	5.67世帯
人数	11人	16人	12人	11人	7人	10人	67人	11.17人

### 【参考】

※小さな拠点とネットワークを形成していくうえで、和良町と隣接している八幡町西和良地区とのつながりを検討していくため、参考として掲載しています。

西和良地区	男女計 ※()は2015年を基準とした増減率				
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
年少人口	25	13	6	2	0 (△100.0)
生産年齢人口	247	174	108	63	45 (△81.8)
老年人口	254	232	222	212	198 (△22.0)
合計	526	419	336	277	243 (△53.8)

- ・2015年から2035年までの20年間に人口が半減する予測。中でも、年少人口は皆減、生産年齢人口は8割減との予測であり、地域の維持が難しくなることが予想される。



### (3) 和良町の産業（就業者数と事業所数）

和良町では、住民の就業者数に対して地区内事業所の従業者数が少ないことから、隣接する下呂市や八幡町など、町外で就業している方が3割以上いることが読み取れます。産業別割合をみると、地域内事業所の従業者数では第2次産業が多いことが分かります。また、住民の就業者数では第2次産業、第3次産業が大半を占めており、第1次産業が約1割と非常に少なく、農林業に従事している人が少ないことが読み取れます。

#### 【就業者数及び事業所数の状況】

（資料：①総務省・国勢調査（2015年）、②③経済産業省・経済センサス（2016年））

	項目	人数・ 事業所数	産業別割合		
			第1次産業	第2次産業	第3次産業
和良町全体	① 住民の就業者数（人）	870	11.15%	40.00%	48.85%
	② 地区内の事業所数（事業所）	96	5.21%	32.29%	62.50%
	③ 地区内事業所の従業者数（人）	561	9.45%	49.73%	40.82%

## 第2章 分野別計画

### 【まちづくりの方向性】

**地域資源を活用した産業振興を図り いつまでも安心して暮らしていける地域づくりを進めます**

～緑豊かな清流の里「和良」～

### (1) 産業・雇用

#### 【現状と課題】

和良町の9割以上が山林と農地であり、地域の少子高齢化が進む中、それらをどう守っていくのかが、地域にとって深刻な問題となっています。和良財産区有林等を活用した学習機会の提供によって、山林を管理していく人材の育成や、農地の転作、集約化を推進し、農地を地域で保全していく仕組みづくりが必要となっています。

地域の観光シンボルとして道の駅和良がありますが、他地域の道の駅と比べて、観光案内や収益面において十分ではない現状があります。これは元々運動公園施設として整備し、その後道の駅施設に指定されたという経緯もあり、立地条件や道の駅として充実した施設が整備されていないこと等が原因として考えられます。地域住民などからも道の駅活性化への声が多く寄せられており、町内に2つあるキャンプ場施設の活用も含めて、和良町の観光施設の機能強化・連携を図っていく必要があります。

和良町には「和良鮎」、「和良蛸」などの貴重な地域資源があり、全国から多くの釣り人、観光客が訪れています。しかし、それらをうまく活用できていない面があり、地域資源から地域経営に結び付ける仕組みづくりや、更なるブランディングで資源の価値を持続させていく方法の検討が必要です。

#### 【目指す将来像】

**道の駅和良が農業、観光など産業振興の拠点機能を果たし、コミュニティビジネスが活性化され、地域経済が循環する和良**

施策 1		山林・農地を地域で守る仕組みづくり
主な取り組み		
1-①	持続可能な地域の農業経営	・「人・農地プラン」を推進し、集落での話し合いの場づくりを支援 ・田んぼオーナー制度など都市交流を活かした農地保全と有効活用 ・道の駅を活用し、地域の農業生産物の販売を強化
1-②	地域全体の山林を保全する人づくり	・「美林の会」など地域の林業活動を支援 ・和良財産区を活用した小中学校での地域教育の推進
施策 2		道の駅和良を拠点とした地域産業の振興
主な取り組み		
2-①	産業振興の拠点となる道の駅和良	・道の駅和良を拠点とする地域の観光・交通情報の発信 ・道の駅、キャンプ場などの観光施設の連携強化
2-②	地域資源を産業へつなげる	・和良鮎など和良川の恵みを活かした地域ブランド戦略の強化 ・地域資源を活かした体験型ツーリズムの推進

## (2) 環境・防災・社会基盤

### 【現状と課題】

清流めぐり利き鮎会で4度グランプリを受賞した「和良鮎」が棲み、夏にはゲンジボタルが乱舞し、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオが生息するきれいな和良川をはじめとした自然環境を保全していくため、住民にとっては当たり前にある自然環境への意識転換を図り、和良川を将来へつなげていくまちづくりを推進することが大切です。SDGsの推進や脱炭素社会の実現など、今後、地域としてできることを考え、持続可能な地域の取り組みが求められています。

和良町においては、平成30年7月豪雨により和良庁舎裏の和良川護岸の損壊や同年9月の台風による被害を受け、住民の自助・共助の意識が高まりつつあります。しかし、消防団員が減少し、消防団だけでは地域の安全を守ることが難しくなっている現状から、この機を捉え自主防災組織の一層の強化に取り組み、地域の防災力を高めていく必要があります。また、住民を犯罪から守るため、地域の防犯対策強化も進めなければなりません。

濃飛横断自動車道の整備が計画されており、これにより交通や生活環境は大きく変化するものと考えられます。そうした社会基盤の変化を見据えた上でまちづくりを検討し、推進していくための仕組みづくりを早急に構築する必要があります。また、既存の公共施設の有効活用や、ガソリンスタンド等の生活基盤に必要な機能を維持していくため、地域と一緒に協賛や検討を行い、地域機能を保っていくことが今後重要になってきます。

### 【目指す将来像】

**地域の支え合いにより災害に強く安心して暮らせる和良**

施策1		和良川の豊かな自然を将来へつなげるまちづくりの推進
主な取り組み		
1-①	和良川が育む豊かな自然を守るまちづくりを推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体へ環境保全活動を呼びかけ、自然環境の保全意識を啓発</li> <li>・小中学校における地域資源を活用した環境教育の実施</li> </ul>
1-②	SDGsを意識した地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性を活かした再生可能エネルギー導入の推進</li> <li>・間伐材などの地域資源を活用した循環型社会の推進</li> </ul>

施策2		地域防災力の強化と防犯意識の醸成
主な取り組み		
2-①	自主防災機能を向上させ、安心安全な地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自助」「共助」による高齢者等の避難支援など、自主防災機能の強化</li> <li>・自主防災組織と防災士の連携による防災意識の向上や人材育成</li> </ul>
2-②	防犯意識を向上させ、見守りし合える風土づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、消防団など地域団体による地域の防犯意識を向上させる取り組みの推進</li> <li>・消防団の見回り活動など犯罪を防ぐ地域の取り組みを支援</li> </ul>

施策 3		道路網など社会基盤の変化への対応
主な取り組み		
3-①	濃飛横断自動車道の開通を見据えたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・濃飛横断自動車道の早期整備を地域で推進する体制づくり</li><li>・濃飛横断自動車道開通を見据えたまちづくりをデザイン</li></ul>
3-②	生活環境を地域で守る仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・ガソリンスタンドなどの生活基盤を維持できるよう支援</li><li>・団体活動にコミュニティアプリを導入するなど、ICTを活用した地域づくりを推進</li></ul>

### (3) 健康・福祉

#### 【現状と課題】

和良町には医療福祉を大切にする風土が根付いており、和良町の健康福祉マスタープランである「まめなかな和良21プラン」の取り組みをこれまで継続しています。しかし、医師不足による病院から診療所への転換や人口減少などにより、今後、プランに掲げる取り組みを継続していく事に課題も多くなっていることから、安心して暮らせる地域を持続させるために、プランを推進する地域の仕組みの見直しが必要であり、他の分野とも連携して健康意識の醸成を更に図っていく必要があります。

高齢者の移動手段を確保する対策として、市が運行する和良巡回バスだけでなく、隣接する八幡町西和良地区との共同運行による福祉有償運送の導入や、自治会単位での高齢者支え合い活動が行われるようになり、そのような活動を地域全体で支えていくことが重要です。

かつては総合病院として産婦人科や外科まであった和良町の医療体制ですが、全国的な地域医療に関わる医師の不足により、現在は救急外来の無い診療所となっています。これは地域住民にとって大きな不安であり、安心な暮らしに関わる重要な課題です。こうした住民の不安を解消する取り組みを地域で検討し、地域全体で地域の医療を守っていく意識を醸成する必要があります。

#### 【目指す将来像】

**地域医療を地域力で支えて地域の安心を守り続けていける和良**

施策 1		「まめなかな和良21プラン」の推進
主な取り組み		
1-①	和良独自の「まめなかな和良21プラン」を推進	・「まめなかな和良21プラン」を地域全体で推進
1-②	地域の支え合い活動を支援	・地域住民による高齢者などの支え合い活動を推進 ・八幡町西和良地区と連携した福祉有償運送事業の支援
施策 2		地域医療を確保していくための取り組みの支援
主な取り組み		
2-①	和良の地域医療を確保し、安心なまちづくり	・地域で地域医療を守っていく意識の醸成 ・医療、保健、福祉を拠点化し連携してサービスを提供

## (4) 教育・文化・人づくり

### 【現状と課題】

少子高齢化の影響は和良町において深刻な問題となっており、児童生徒の減少により小学校、中学校の存続が危ぶまれる状況となっています。大学、専門学校などが無い郡上市において、高校卒業後に若者が流出するのは仕方がないことですが、地域に戻ってきてくれる若者を一人でも増やすため、教育分野の役割を理解し、地域全体で意識し取り組んでいく仕組みづくりが必要です。

過疎化により、どの地区においても人口が減少し続け、祭礼の維持や神楽などの伝統芸能の存続が危惧されています。そのほかにも地域活動への若者の参加者が減少しており、団体構成員の高齢化が進んでいるため、近い将来、地域活動の存続が困難になる可能性があります。地域の歴史・文化は、地域住民に大切なものであり、それが衰退していくことは地域としての誇り（地域プライド）を失うと同時に、住民の活力にも影響が出てくるものと考えられ、地域の貴重な資源を活かし、将来へつなげていく仕組みづくりが必要となります。

昔から和良町はスポーツ活動が盛んであり、ニューイヤーズマラソンは和良町独自の取り組みとして長年続けられています。しかし、高齢化などによりこうしたスポーツイベントの継続が難しくなっているのが現状であり、和良地区公民館が主体となった運営手法の見直しや、スポーツを通じた交流を推進していく必要があります。また、高齢者にとってスポーツは健康づくりであり、「まめなかな和良21プラン」と連携した効果的な取り組みも求められています。

### 【目指す将来像】

**地域文化を地域で見直し、地域プライド（誇り）を守っていく和良**

施策 1		和良にある貴重な歴史遺産を地域振興へ
主な取り組み		
1-①	地域の支え合いで子どもたちを守る活動を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統文化資源を子どもたちに受け継ぐ地域教育を推進</li> <li>・地域団体が連携し、子どもたちを見守る活動を推進</li> </ul>
1-②	地域資源を活かした文化振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和良歴史資料館を有効活用し、文化活動を振興できる拠点づくりを推進</li> <li>・和良地区公民館を中心に各種団体の連携強化と活動の拡大</li> </ul>
施策 2		スポーツを通じた住民交流と健康づくり
主な取り組み		
2-①	スポーツやサロンを活用した交流と健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和良地区公民館などによるスポーツを通じた交流の推進</li> <li>・地区サロンを活用した高齢者の健康づくり活動を支援</li> </ul>

## (5) 自治・まちづくり

### 【現状と課題】

和良町の地域づくりは、自治会、和良地域協議会、和良おこし協議会など様々な団体が関わり取り組んできました。しかし、これらの活動は他と連携することが少なく、単独の活動として継続することが困難な状況となっています。地域として改善がされないまま現在に至っていることから、「小さな拠点とネットワーク」の形成を目指して、地域の機能の見直しを行うとともに、地域の各種団体の連携を強め、まちづくりを進める体制づくりが重要です。また、地域を運営する組織を構築し、地域人材の育成や、町外からの交流人口を増やし、潜在的な地域活力を引き出していく取り組みも検討しなければなりません。

和良おこし協議会においては、交流や移住の推進など人口問題における大切な役割を担ってきました。和良町への移住相談も多く、これまで多くの移住者が和良町へ定住されています。しかし、移住相談の際に紹介する空き家物件や、移住後の就労先の紹介件数が少ないなど課題を抱えている面もあります。また移住の一手手前の関係人口を増やしていくことも重要であり、そうした施策の推進も必要です。

### 【目指す将来像】

**地域の拠点機能が維持され、交流や移住の推進などにより持続可能な和良**

施策 1		地域の拠点機能の地域によるマネジメント
主な取り組み		
1-①	持続可能な住民自治体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>和良町における「小さな拠点とネットワーク」運営組織の構築</li> <li>地域おこし実践隊による地域活動の支援</li> </ul>
施策 2		交流・移住の推進
主な取り組み		
2-①	移住定住の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>和良おこし協議会による移住支援の推進</li> <li>移住者の就職や地域との交流の支援</li> </ul>
2-②	都市交流などを通じた関係人口の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>農家民泊による都市住民との農村交流の推進</li> <li>移住体験施設（ゲストハウス）の整備支援</li> </ul>

## 第3章 小さな拠点とネットワークの形成にむけて

### (1) 小さな拠点とネットワークの考え方

市内には多くの自治会（地区）がありますが、世帯数が50を割るなど、少子高齢化により自治会規模の縮小が進んでいるところも少なくありません。こうした自治会（地区）では、地域住民の安全・安心な暮らしを確保することや祭礼などの伝統行事を維持・継承することのほか自治会共同作業を継続して行っていくことが、今後はより困難になっていくと考えられます。

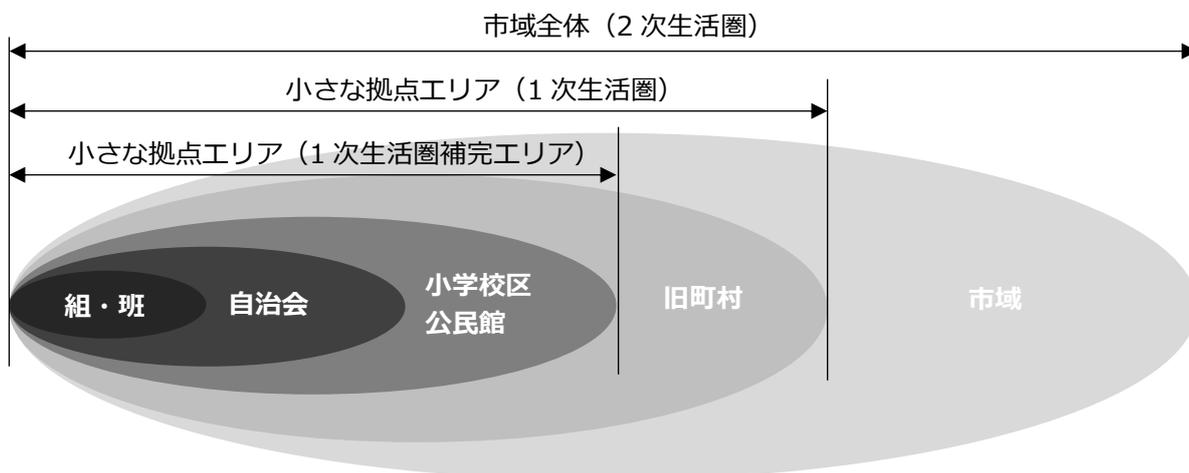
郡上市の人口推移の見通しから、高齢者の割合はますます増加していきませんが、地域活動の担い手となる生産年齢人口の割合はさらに減少していきます。このため、地域的なつながりが強い一定の単位（小さな拠点エリア）において日常の生活を支える機能を集約し、交通、人、情報など様々なネットワークでつなぐ「小さな拠点とネットワーク」の形成と、地域運営組織の構築が急務となっています。

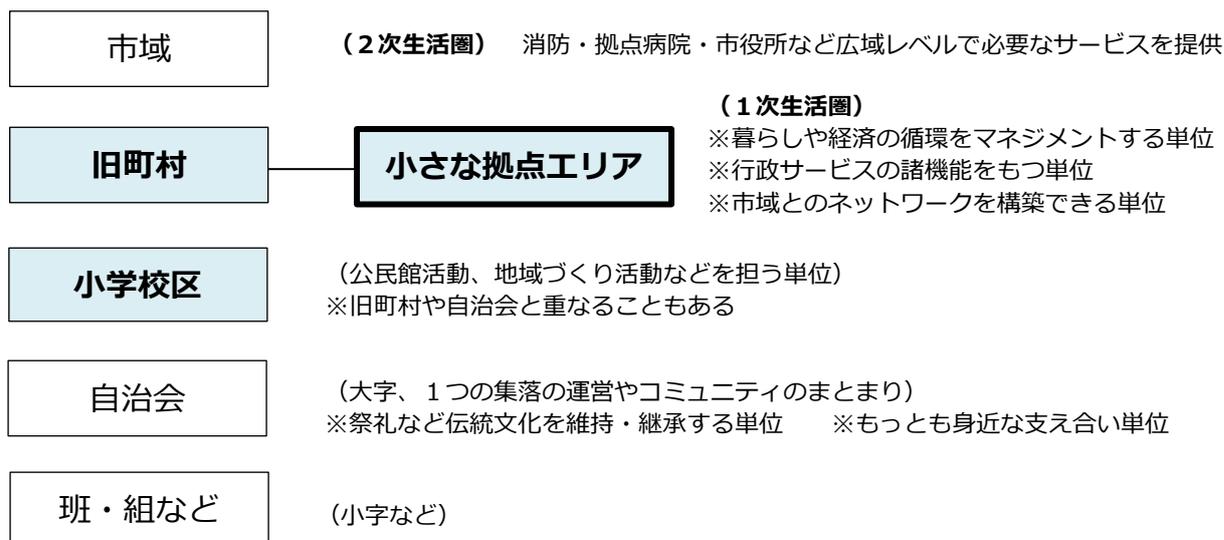
市内には、すでに「小さな拠点とネットワーク」によって地域課題の解決に取り組んでいる地区がいくつかあります。まずはこれらの地区を「モデル地区」として積極的に支援し、地域の実情に合った取り組みを進めながら全市に広げていきたいと考えています。

### (2) エリア設定の考え方

地域的なつながりが強い一定の単位（小さな拠点エリア）の設定については、もっとも身近な支え合いが可能となる最小単位のコミュニティや、祭礼などの伝統文化を維持・継承する集落、そして歴史的、文化的経緯を共有できる範囲を考慮する必要があります。市内には班や組、地区会、自治会がありますが、最小の単位を班や組、最大単位を市域（郡上市全域）として捉えた場合に、「小さな拠点エリア」をどのように設定し、設定したエリアの中で「生活拠点」をどのように配置するのか、また生活に必要なサービス等をどのように確保していくのか検討していく必要があります。

郡上市では、こうした考え方のもと、行政サービスの諸機能を有し、市域とのネットワークを構築できる旧町村単位（1次生活圏）を「小さな拠点エリア」と設定しております。ただし、八幡町及び白鳥町については、小学校区を基本とした比較的小規模な単位を、生活や地域コミュニティの形成に最低限必要な一定の機能を有している「小さな拠点エリア」の中にあるサブエリア（1次生活圏補完エリア）として位置付けています。また広域レベルで必要なサービスを提供する消防、拠点病院、市役所などの機能は、2次生活圏として市域全体の中心拠点となる八幡町の市街地エリアに位置付けています。





### (3) 地域運営の仕組みづくり

人口減少や少子高齢化が進む中において、地域コミュニティの維持をはじめ、地域で必要な生活サービス等を受け続けられる環境を維持していくためには、住民自らが地域内の課題を自分事として捉え、地域の資金や人材を有効に活用しつつ、住民が主体となって地域での暮らしを支える活動を行うという「住民主体」が基本となります。本計画にある行政が行う施策だけでは解決が困難な地域課題等に対し、今後、住民主体の地域計画（以下「地域運営プラン」という。）を作成し、それを協議、実行していく「地域運営組織」の形成を進めていく必要があります。

「地域運営プラン」や「地域運営組織」を形成していくには、地域の現状を把握し、課題解決に向けた議論や検討が必要となるため、地域の現状を「小さな拠点とネットワーク」（生活拠点として日々の暮らしに必要な機能）という観点から第4章にまとめています。

なお、郡上市では「小さな拠点エリア」を旧町村単位としておりますが、もっとも身近な支え合いが可能となる最小の単位を小学校区として捉え、サブエリアの位置づけのない地域（八幡町、白鳥町以外）についても、小学校区ごとに地域の現状を記載します。

## 第4章 和良町における小さな拠点とネットワークづくり

和良町は町全体を1つの小さな拠点エリアとしており、最も身近な支え合いが可能となる最小の単位である小学校区と同じ範囲となっています。和良町では町全体での小さな拠点とネットワークの形成を検討していきますが、小中学校の統合や福祉事業で連携している八幡町西和良地区とのつながりも考えていきます。



## (1) エリアの現状

【和良エリア】(和良小学校区)	
エリアの商店等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エリア内に食料品や日用品等を扱う店舗が4店舗あり、郵便局、農協、信用金庫等の金融機関のほか、自動車整備事業所や理髪店など生活に必要な店舗は中心部に集中しています。なお、エリア内のガソリンスタンドは1店舗のみとなっています。</li> <li>○コンビニは町内には無く、一番近いところは下呂市金山町になります。また下呂市に隣接しているため、多くの方が買い物先として下呂市の店舗を利用しています。</li> <li>○飲食店はここ数年で減り、現在は6店舗だけとなっています。いずれの店舗も高齢化が進んでおり、今後益々減っていくことが予想されます。</li> </ul>
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>○郡上市役所和良庁舎、和良介護老人保健施設、和良町民センター(和良公民館、郡上市図書館わら分室)、わら児童館、和良保育園、和良小学校、郡上東中学校、和良歴史資料館、道の駅和良、和良川公園オートキャンプ場、和良大月の森公園キャンプ場</li> </ul>
医療・福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>○和良エリアの中心部には国保和良診療所、和良介護老人保健施設、和良保健福祉歯科総合施設(保健センター)が集約されており、医療・福祉機能の拠点化が図られています。</li> <li>○多くの方がエリア内の医療や福祉施設を利用していますが、医師不足の影響もあり、救急医療、夜間診療などの医療機能は低下してきています。</li> </ul>
公共交通の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○八幡観光バスが運行する和良線が、和良町内と八幡町の主要な施設を結んでおり、地域住民をはじめ、高校生の通学にも利用されています。</li> <li>○市の自主運行バス「和良巡回バス」が週3日運行しており、八幡町西和良地区も含めて、主に国保和良診療所への通院の足となっています。</li> <li>○高齢者の移動手段をもっと確保しなければいけないという意識が高まり、令和2年度には地区ボランティアによる高齢者支え合い活動が、郡上市社会福祉協議会の支援によりスタートしました。令和3年度からは西和良エリアと連携し、福祉有償運送が行われています。</li> </ul>
エリアの特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○和良エリアは中山間地域であり、中央の開けた土地に地域の機能が集約化されていますが、市内で一番高い人口減少率や、商工業の衰退などの地域課題も多く、持続可能な地域づくりを進めるには、隣接する八幡町西和良地区や下呂市などとの連携が必要不可欠となっています。</li> <li>○和良エリアは、15の自治会に分かれており、人口の割には多い区分けとなっています。また、自治会によっては自治力が低下しているところもあり、地域団体である和良おこし協議会による集落点検など地域再生に向けた取り組みが行われています。</li> <li>○和良町の産業構造は人口減少により商工業の衰退が著しい面もありますが、大手の農業法人によるシイタケ栽培や、養鶏、トマト栽培などは生産力もあり、地域の雇用の場となっています。</li> <li>○地域のシンボルでもある道の駅和良や観光施設であるキャンプ場等が整備されていますが、連携強化による集客力の向上等が課題となっています。</li> </ul>

## 【参考】

※小さな拠点とネットワークを形成していくうえで、和良町と隣接している八幡町西和良地区とのつながりを検討していくため、参考として掲載しています。

【西和良エリア】（西和良地区）	
エリアの商店等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○エリア内に店舗はなく、JAのガソリンスタンド内の売り場スペースに日用品が多少陳列してあります。</li> <li>○食料品や日用品等の買い物は、10km先の和良町のスーパー、もしくは市街地エリアまで行く必要があります。</li> </ul>
公共施設	○西和良公民館、旧西和良小学校校舎等
医療・福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>○西和良まちづくり協議会によりミニデイサービスが行われていますが、エリア内に医療施設はありません。</li> <li>○郡上市民病院をはじめ隣接した市街地エリア等の施設を利用することが多く、また和良診療所を利用することもあります。</li> </ul>
公共交通の状況	○八幡観光バス和良線が、国道256号を平日13便・土日祝日6便運行しています。また和良巡回バス田平・美山線が週2日（1日2便）地域内を巡回しています。
エリアの特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少子高齢化による生徒数の減少から、西和良中学校は平成23年3月に和良中学校と統合（和良町に郡上東中学校を新設）し、閉校しました。また、西和良小学校は和良小学校との統合により平成31年3月に閉校しました。</li> <li>○エリア内には肉牛牧場があります。</li> <li>○平成28年に西和良まちづくり協議会が設立され、平成30年より地域おこし協力隊員を採用して有害鳥獣対策、ジビエの活用、ミニデイサービス、買い物支援等を行ってきました。令和3年度からは2人目の隊員を迎え入れ、地域運営組織として自立できるよう旧西和良小学校を拠点に、積極的な地域活動に取り組んでいます。</li> <li>○40年ほど前までは7つの集落で神楽を奉納していましたが、舞い手となる年少者の減少により、現在では伝承会を組織した鬼谷地区のみで奉納が行われています。</li> <li>○高齢者は病院の受診に合わせて買い物や行政・金融手続き等を市街地エリアで行っています。また小那比地区の会社に勤めている方もおり、小那比・野々倉地区との交流もあります。</li> <li>○小中学校の統合により和良町とは校区が同じになったため、保育園や学校関係の交流が生まれています。</li> </ul>

## (2) 和良町の主な地域活動団体

分野	地域活動団体
産業・雇用	郡上市商工会和良支部 和良観光協会 和良おこし協議会（体験型ツーリズム） 和良トマト生産者組合 和良美林の会 和良林業経営研究クラブ 和良鮎を守る会 和良川を守る会
健康・福祉	和良地区社会福祉協議会 郡上市シニアクラブ連合会和良支部 和良町民生児童委員協議会 まめなかな和良21推進委員会 地域支え合い隊（鹿倉地区、土京地区等）
環境・防災・社会基盤	郡上市消防団和良方面隊 郡上市防災士会 和良蛸を守る会
教育・文化・人づくり	和良地域公民館 和良文化協会 和良文化財保護協会 青少年育成和良地域会議 郡上市スポーツ推進委員和良地域部 郡上東ブロックの子どもを育む会（学校運営協議会） NPO 法人郡上市放課後児童クラブ（和良放課後児童クラブ） 和良町子ども会育成連絡協議会 和良シルバー大学 ※西和良公民館
自治・まちづくり	郡上市自治会連合会和良支部 和良地域協議会 和良おこし協議会 ※西和良まちづくり協議会

※小さな拠点とネットワークを形成していくうえで、和良町と隣接している八幡町西和良地区とのつながりを検討していくため、八幡町西和良地区の団体も掲載しています。

### (3) 小さな拠点とネットワークづくりの方向性

小さな拠点とネットワークを形成していくには、地域住民が主体となって地域を運営していく地域運営組織の形成が必要となります。和良町は町全体を1つの小さな拠点エリアと設定しており、和良地域協議会が中心となって地域課題の解決に向けて取り組んでいます。また、まちづくり団体である和良おこし協議会が集落の存続を目指した地域づくりを実施しており、地域のまちづくりへの機運が高まっています。今後は、和良地域協議会を中心に、自治会や公民館をはじめ、和良おこし協議会などの地域団体と連携を図り、道の駅和良などの地域の拠点施設を活かしながら地域運営組織を構築することで、持続可能な地域を目指す必要があります。

#### ◆和良町内の小さな拠点とネットワークに向けた活動例

和良町では、和良地域協議会が平成28年に「和良の郷夢ビジョン」を策定し、道の駅和良を拠点とした地域における観光・産業振興の基盤強化を検討してきました。夢ビジョンには小さな拠点とネットワークの考え方が組み込まれており、既存の公共施設を4つの機能（道の駅和良：観光産業、和良歴史資料館：教育文化、和良診療所・和良老健・保健福祉施設：医療福祉、和良振興事務所：防災・自治）に分類し、関連する団体や組織を組み合わせることで運営を行う計画となっています。今後も夢ビジョンを基にしながら小さな拠点とネットワークの形成に向けて協議していきます。